

## 相互提案型協働事業実施報告書

平成26年4月30日

(宛先) 座間市長



団体住所 座間市入谷4-2419-2  
フォルスコート座間3-308

名称 座間生ごみ堆肥化グループ  
代表者氏名 笠波信子



市	担当課	資源対策課
	所属長	課長 圓城 厚
		農政課
		課長 有山 利晴
		生涯学習課
		課長 伊波 俊行



次のとおり報告します。

1 事業名	生ごみの堆肥化推進事業「生ごみ資源化で循環型社会へ」	
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業	<input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成24年度選考 ( 平成25年度実施)	
4 報告期間	平成25年4月1日 から 平成26年3月31日 まで	
5 事業費	405,010円 (うち座間市支出分 221,010円)	
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	1.堆肥化講座の開催 ①コミセンなど地域を対象としたもの ②全市民を対象としたもの 2.実践者へのアフターフォロー講座 3.市が助成をした生ごみ処理機購入者へのアンケート実施によるアフターフォロー 4.市役所で生ごみ堆肥化相談会、PR活動 5.ふるさとまつり・緑化まつりでダンボール箱を使った生ごみ堆肥化をPR 6.市民農園利用者へダンボール箱を使った生ごみ堆肥化をPR 7.実践者対象の情報交換会開催 8.実践者へダンボールコンポスト通信の発行 9.出来た堆肥と新基材の無料交換制度 10.小学校PTAで講座を開催	
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

相互提案型協働事業評価シート

事業名	生ごみの堆肥化推進事業「生ごみ資源化で循環型社会へ」
-----	----------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	<p>所期の目的は、十分達成できましたか。</p> <p>講座参加人数 150人→35人(34組) 達成率23% 実践者数34組→27組 " 79% 生ごみ処理機等助成対象者へのアフターフォロー依頼なし 無料交換希望なし PTAからの依頼なし</p>	
事業成果・効果	<p>事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。</p> <p>講座開催場所がコミュニティセンター中心であったため参加者が少なかったが実践率は高かった。 まつり、市役所でのPR効果により講座以外で3名が実践者となった。 基材販売174セット、1セットで約50kgの生ごみを処理=8,700kg 可燃ごみ削減</p>	<p>講座を通して廃棄物行政に関わる市の現状や問題点、ごみ減量の必要性など市民の意識啓発、向上につながったものと考える。</p> <p>市民農園利用者へのPR PTAにチラシを配布し、講座のPR</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	<p>十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。</p> <p>生ごみの堆肥化推進、循環型社会への取り組みで、団体は「市民一人ひとり、家庭単位でできることからはじめる」ですすめてきた。 この目標を共有できたと思う。</p>	

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	スケジュール通りにできた。	ほぼスケジュール通りに事業を実施することが出来た。
対等な関係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	協議では団体の意図しているところを伝え、理解してもらえた。 担当課からは役割分担の削除、PTA宛ての手紙の修正などの提案があった。概ね対等な立場で事業を実施することができた。	団体が果たす役割と市に期待する役割をそれぞれが責任を持って事業を実施することが出来た。
相互理解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	それぞれの力を発揮できたと思う。	互いの立場を考え、相互理解を持って事業を実施することが出来た。

### 3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	(団体の役割) ① 講座開催 ② 生ごみ堆肥化に取り組む市民へのアフターフォロー ③ 市民への生ごみ堆肥化啓発活動(相談・まつりや市民農園契約者へのPR・情報交換会の開催・通信の発行) ④ 煙等での堆肥活用実践者と活用機会の少ない実践者との仲立ち	(市の役割) ①講座での、市の現状や今後の方向性の説明 ②広報誌などによる事業の周知、PR ③会場の確保支援 ④公共施設へのポスター・チラシの配布・設置 ⑤アンケートの実施 ⑥市民農園利用者へのPR ⑦小学校PTAとの仲立ち

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正	概ね適正である。
実 施 結 果	<p>設定した役割分担を果すことができましたか。</p> <p>講座への参加者が少なかったため実践者数は伸びなかった。</p>	
	<p>果すことが出来た。</p> <p>団体が果たす役割と市に期待する役割をそれぞれが責任を持って事業を実施することが出来た。</p>	
協働による効果	<p>それが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。</p> <p>*座間市のごみ事情を市職員が話すことで関心が高まった。</p> <p>*信頼度が高いので講座後、材料の販売もスムーズに行えた。</p> <p>*公共の場所でPRができ、講座参加、実践へつながった。</p> <p>*場所確保・広報活動もスムーズにできた。</p>	<p>講座や相談会など市が単独で行う以上のボリュームある事業を実施でき、成果を上げることが出来た。</p> <p>市民農園利用者に限定し、PRすることで、対象者がこの分野に興味のある市民であるために理解を得やすかったのではないかと思う。</p>

#### 4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	<p>(団体の考え方)</p> <p>生ごみ堆肥化講座の参加者はごみの分別や資源化への意識が高い。講座でのアンケートでも「ごみを減らしたい、生ごみを捨てるのはもったいない」と記している。一方、生ごみの資源化は、分別回収、処理設備など多くの問題がありほとんどの自治体で進んでいない。そのような中、ダンボールコンポストは市民一人ひとり、家庭単位でできる有効な資源化策であることが事業実施を通して、あらためて講座参加者や実践者と共有することができた。</p> <p>公共施設での定期的なPR活動は有効であることから今後も継続的な取組みとしたい。また、実践者への継続支援をはじめ、実践者同士の交流や市内外の関連団体と連携を進め、その輪を広げていきたい。</p> <p>要望として</p> <p>*ダンボールコンポストPRのために公共施設の一角を定期的に借りたい。</p> <p>*電動式もダンボールコンポストも生ごみの削減に貢献していることに変わりはない。ダンボールコンポストも補助金支出をしている他市を研究し、補助の対象にしてもらいたい。新たな財源確保が困難であれば、今の補助金全体額で再配分を検討してほしい。</p>	<p>(市の考え方)</p> <p>【資源対策課】</p> <p>燃えるごみの大部分を占める生ごみの減量について、施設整備や大型生ごみ処理機の導入を行うことなく、各家庭や個人が少しでも考え、協力していただける施策を展開していきたい。</p> <p>具体的には生ごみ処理容器に対する補助事業の継続及び市民への広報・PRの拡充に努める。</p> <p>【農政課】</p> <p>GAPやトレーサビリティの面で、商業ベースでの利用が難しいため、せっかくできたたい肥料の利用先がないといった問題が出ているようである。今後は公園や園芸での利用も考えられるのではないだろうか。</p>
---------	--	--